

令和6年度入学者選抜学力検査問題

総合問題 正解・解答例

I

問1

資料1によると、衣類の国内供給量は、増加傾向を示している。その供給元として、国内生産量は減少傾向にあるのに対して輸入浸透率は上昇しており、日本の衣類の大半が輸入品となったことがわかる。資料2によると、輸入元としては、2000年から2019年の間に中国、イタリア、韓国、米国のシェアが減少した一方、ベトナムのシェアは増加し、加えてバングラデシュ、カンボジア、ミャンマー等、発展途上国と呼ばれる国々が上位に位置するようになった。資料3によると、衣類の購入単価と購入数量ともに全体的に低下傾向を示している。購入単価の低下の要因として、輸入元が発展途上国に移行したことや、国内供給量が増加しているにもかかわらず(二人以上世帯あたりの)購入数量が減っていることが推察できる。(332字)

問2

サーキュラー・エコノミーとは、新たな資源の投入や消費量を最小限に抑え、廃棄物や汚染の発生抑止を目指す循環型経済システムのことである。(66字)

問3

大量生産・大量消費を前提とするシステムから転換し、衣類の循環を可能とするビジネスデザインが必要である。具体的には、繊維産業には、消費者の需要に合致した衣類の生産、不要となった衣類を再資源化するための収集システムの構築、および収集した衣類を原材料とする再生品を生産するための技術開発の促進が求められる。消費者には、衣類の大量購入を避け、処分する量を最少にするために、日常生活における丁寧な衣類の取り扱いや、収集システムを利用した衣類の再活用が期待される。(226字)

II

問1

移民第二世代は、アイデンティティの問題を抱えがちである。この世代は、自分が生まれ育った社会において常にマジョリティとは異なる存在として理解されることで疎外感を抱く一方、親の祖国にも社会の一員として属することができないため、自らの居場所がないと感じる傾向にある。また、移民第二世代の生きる時代は、インターネットや文化の越境によって個人が社会との一体感を持ちにくい状況にある。さらに、経済成長の鈍化により雇用状況が悪化する中、産業的にはサービス業への転換により、マジョリティとは異なる文化資本を持つ移民第二世代は不利な立場に立たされる。このため、移民第二世代はアイデンティティの空白を埋めようとするが、個人の選択を尊重するリベラルな欧米社会において、親の意向とは関係なく自らが望む形で宗教にかかわる選択をしやすいこともあり、自らのルーツとしての宗教に居場所を見つけようとする。(386字)

問2

異なる文化や宗教を持つ人々をどのように包摂するかは、社会的課題である。移民の問題について理解することは、マジョリティとは異なる属性をもつ人々を差別することの問題に気づきを与えてくれる。また、移民第二世代が第一世代と異なる葛藤を抱えていることについて知ることは、マジョリティにとって一様に見える移民集団の中にある世代間の違いを示すものであり、移民はすべて同じであると思いきむことの問題点を教えてくれる。このことは、人権を守り、そこに住む人々が過ごしやすい社会を作るために重要な視点を提供する。また、この視点を生かした社会づくりは、マイノリティとされる人々の社会からの疎外感やその結果生じる不満や反感を軽減する助けとなるため、社会の分断を防ぎ、より安定的な社会を構築する方向につながると考えられる。(346字)